

2005年度 サロン 2002 総会議事録

【日時】 2005年5月28日(土) 15:00~17:30 (→その後ナビスコカップ観戦)

【会場】 独立行政法人日本スポーツ振興センター会議室

【議決成立要件】

2005年度会員数(総会時) 117名(ただし2005年度会費未納者も含む)。
出席者数18名、欠席連絡者のうち委任状提出者数56名、合計74名で、定足数に達した。

【議長】 中塚義実

【総会出席者】 18名

葦沢慧 麻生征宏 安藤裕一 宇都宮徹壱(早退) 浦和俊介 川井寿裕 岸卓巨 高橋義雄
田中俊也 田中理恵 徳田仁 中塚義実 野崎浩之 長谷川雅久 福西達男 本多克己
両角晶仁 依藤正次

【欠席連絡者(委任状提出者)】(64名。うち委任状提出者は56名)

相原正道 浅野智嗣 泉優二 伊藤彰 井上俊彦 今川良子 上間匠 宇都宮みちこ
梅本嗣 大橋二郎 小幡真一郎 梶野政志 加納樹里 北岡真幸 木村優一 窪田修
熊谷建志 古藤田信博 木幡日出男 五香純典 齋藤健司 齋藤律 榊原孝彦 坂下佳弘
嵯峨寿 笹原勉 塩沢拓也 嶋崎雅規 島原裕司 神宮司親治 角南俊介 高崎康嗣
高間祥文 多田寛 茅野英一 土谷享 仲澤眞 中塚頼彦 中村敬 長岡茂 葉梨忠男
早川武彦 福岡哲朗 藤田稔人 麓信義 堀美和子 前田博子 松下徹 松本行弘
丸山裕之 宮川淑人 宮城島清也 宮崎雄司 村木初年 村林裕 室田真人 安松幹展
山下高行 山下則之 山田告人 山中麻耶 山本浩義 由利英明 涌田龍治
※委任先: 中塚義実(32名)、理事長(1名)、議長(12名)、総会(1名)、みなさま(1名)、出席者(1名)、参加者(1名)、委任(6名)、委任先不明(9名)

【議事録作成者】 岸卓巨

<目次>

◆ 議題

- 報告Ⅰ. 2004年度事業報告および決算
- 報告Ⅱ. 2005年度会員募集について
- 報告Ⅲ. 理事会報告
- 審議Ⅰ. 「役員を選任に関する規定」について

審議Ⅱ． 2005年度事業計画及び予算

予算案

シンポジウム・プロジェクト

出張・合宿・お出かけサロン

月例会

サロン2002オフィシャルサイトについて

メールングリスト・サロン通信

予算案承認

ポロシャツについて

会費について

サロンの今後について

法人化について

サロン掲示板について

<補足：サロンのロゴの著作権と制作費について>

この総会は、2005年度はじめの総会である。サロンは、年度初めと年度末（HP上で開催可）に総会を行うことになっている。今回の総会は、本年度どうするかと昨年の報告事項を中心に話し合う場である。

報告Ⅰ． 2004年度事業報告及び決算

川井：2004年度決算について報告させていただきます。お手元の決算報告書（案）をご覧ください。

○決算報告（案）の内容

収入の部

- ・主な収入は会費 280,000 円、前年度繰越金 186,910 円、合計 466,913 円となっています。
- ・2004年度の会費納入者は112名ですが、うち1名は「サロン2002」で振り込まれているため、誰から振り込まれたのか不明となっています。また、入会の意思表示はされましたが、会費を納入されなかったため、2回の督促を行いました。しかし、最終的に会費を納入していない方が14名いらっしゃいます。
- ・さらに、預金利息受入として3円を計上しています。

支出の部

- ・支出は事業費として 327,228 円、次年度繰越 139,685 円、合計 466,913 円となっています。
- ・プロジェクト補助、月例会補助については別会計で処理しています。2004年度月例会運営費が9,000円のマイナスとなったことから本会計から充当し、公開シンポジウムに対して119,769円を補助しています。
- ・また、17年3月31日に開催した月例会100回記念の会場借上料として30,000円、名簿は130部作

成で 59,000 円を計上しています。

- ・通信運搬費は、毎月月例会案内・報告が入会の意思表示をした方宛に中塚理事長からメールで送信されていますが、はっきりとした明細が出ないため、会費を納入しているか否かにかかわらず会員に対して 1 人あたり毎月ハガキを送ったと想定して計算し、75,000 円を計上しています。
- ・さらに、名簿の送料として 23,890 円、名簿郵送用封筒など消耗品費として 4,059 円、メーリングリスト契約料として 6,300 円と振込手数料 210 円を計上しています。
- ・そして、残額 139,685 円を次年度に繰り越すこととしています。

麻生： プロジェクト補助について（参照：公開シンポジウム 2004 会計報告）

シンポジウムの収入としては参加費が 27 名分で 27,000 円。今回は会場費がかかっていません。雑費とは当日の案内作成などにかかった費用で 2,909 円。また今年度チラシを作成したので、作成費が 22,720 円。配布のために各大学に送付しているので通信費として 3,910 円。今回は講師の謝金（両角さんは辞退。3 名分）として合計で 15,000 円。支出合計は 44,539 円だったので、シンポジウムそのものとしてはマイナス 17,539 円ということになりました。報告書関係の会計については、収入としてシンポジウムの残金と書いていますがマイナスということになります。報告書の賛助金は団体から 110,000 円。個人から 15,000 円。当日バックナンバーの売り上げは 2,500 円。別で購入いただいた報告書の売り上げが 21,000 円。全体会計より 119,769 円補助をいただいて、収入が合計 250,730 円。これに対して支出は、テーブル起こしを多田さんにやっていただき、謝礼が 5000 円。その他に印刷費が 224,000 円。発送手数料として 4,000 円。それぞれに消費税がかかりますので 11,400 円。報告書を送付する際にかかった宅急便手数料が 6,330 円。支出合計が 250,730 円、トータルでプロジェクト収支を 0 円とさせていただきます。

中塚： 日付を見て分かりますように本日ようやく仕上がりましたので、不備やまだ実行されていない代金もごぞいます。例えば、高橋さん、福西さん、徳田さんへの講師謝金はまだ支払われておりませんのでこれから支払いますし、両角さんが謝金を辞退というのも今ここで確認させていただきました。

宅急便送料のところですが、実は仕上がったものをまず 50 部、フットボールラヴァーズに送ってもらいました。それから、日本サッカー協会に 30 部送りました。その配布先については、総務部の村山さんに検討してもらっています。それから、スポーツ振興センターtoto 助成審査委員に 43 部、三田市整形外科に 10 部、川井さんから名簿とともに送って頂くということで 150 部送りました。残部は筑波大学附属高校に届けてもらいました。これから先、この報告書を有効に活かしてくれそうな方々やサロンをこれまで支えてくださった方々、それこそ社・心グループの頃からお世話になった方々がいらっしゃるので、個別にお送りしようと思うのですが、その送料がいずれ発生します。しかし、それを待っていたのでは 2004 年度の決算ができないのでとりあえず現時点での締めとし、これから先送る必要がある分については、2005 年度のお金でお送りしたいなと思いますので、この点についてもご審議ご検討ください。全体を通していかがでしょうか？

高橋： 全体の会計の監事をしています高橋ですが、プロジェクトの会計が本日できあがったということで、それを川井さんに急遽、全体会計のプロジェクト補助に 119,769 円入れていただきました。それ以外に関しましては川井さんのご尽力をいただきまして、全ての領収書、通帳の出し入れを名古屋まで FAX いただきました。一応、確認を私の方でさせていただき、合っていることを確認しています。1 つ領

収書が会計としてこれから取らなくてはいけないのかなというのが、通信費は中塚先生の名前の領収書が必要なので、後で書いていただこうと思っています。それを加えますと、この全体会計については、監事といたしまして正しいことを確認しております。最後に残った次年度への繰越金であります 139,685 円が確実にあるかどうかを確認させていただき、あるということが分かり次第、皆さんにメールで報告させていただきます。

中塚：では決算報告（案）は、承認されたものといたします。本当は2004年度末のメールでの総会で議決し、この場では報告というつもりだったのですが、全体的にずれこんでしまいましたので、報告といいながらここで承認されたということにしたいと思います。

報告Ⅱ．2005年度会員募集について

●現時点で入会意思表示された方は117名（昨年度は116名）。この方が名簿に記載されている。ただし117名中、会費納入者は72名。受入金額は現時点で257,000円。

●2004年度会員で退会の意思表示されたのは、次の3名（昨年度は2名）。

津田綾女 嶋田陽造 藤生栄一郎

●2004年度に入会の意思表示をした（退会の意思表示をしなかった）が、2回の督促にもかかわらず、会費未納者が残ってしまった。うち100回記念パーティーに参加していた2名（うっかりミスであると判断）を除き自動退会。

報告Ⅲ．理事会報告

中塚：理事会報告、これはもう皆さんのところにもお送りしていますので、あえてここでは取り上げません。ここまで通して、何か連絡・報告事項ありますでしょうか？特に無いようでしたら審議事項にいきます。

審議Ⅰ．「役員を選任に関する規定」について

中塚：先程の理事会報告の3ページ目をご覧ください。審議Ⅳ.理事選出の手順というところが今日のこの議題の全体になっています。3月の理事会でもこれはもちろん取り上げました。実は去年の総会で、この理事選出手順が決まっていなくて、規約には「第8条 役員は、別に定めるところにより、会員のうちから、総会において選任する」となっているのですが、この規約ができた2000年からずっと附則というものがついていまして、附則の3番目「2000年度の代表は、第8条第一項の規定にかかわらず、中塚義実とする」となっています。このスタイルは会として望ましくないのではないかというのが去年の総会で出まして、理事会で大まかな方向性を議論しました。議論はメール上で続いたのですが、最終的に6月8日に両角さんが書いてくださった手順書が提起され、それを理事会メールでやり取りしているうちに議論が中断してしまいました。そして、気が付いたときにはもう3月になっていました。「年度単位の会

員制であるサロン 2002 では、理事の任期も 1 年である。ここに至っては、2005 年 5 月の総会で「理事選定基準」を審議していただき、その後、同規定に従って 2005 年度の理事を選出するしかない。2005 年度理事が選出されるまでの間、2004 年度理事が引き続き職につくことをお認めいただきたい」（2004 年度末理事会報告）という 3 月の理事会報告を承認する形で総会でお認めいただき、今日まで 2004 年度の理事が引き続きやっている訳です。ですが、もうとにかくこの場で決めてしまわないといけなくて、ご審議をお願いします。役員選定手順（理事会案）というものが今日のたたき台です。理事会案となっていますが、実は、これは去年の 6 月 8 日の両角さんの試案から「選考委員会は必要に応じてオブザーバーを招集できる」という一文だけ加わったものです。見てもらったら分かるように、A 案・B 案・C 案とありますので、この中のどれかを選んでいただかないといけません。もしくは、この全体について本当にいいかどうかという事も含め、ちょっと時間をとって議論したいと思います。

両角： ここには手順だけ書かれているので、今日ここで、骨子だけ決めていただければ、規定化は私がやります。ただし、役員の選定規定は、規約第 12 条第 1 項「その他サロンに関する重要事項」に当たるとは思いますが、これではいけないかと考えられますので、総会で議決しないと規定はできませんよね。総会はメールでも出来るので、ここで基本的な項目を決めてもらえば規定の形にして、それを次の理事長や役員が決まるまで、暫定理事会にメールで投げて承認を得た段階で会員全員にメーリングリストで送って承認を得れば、それを規定にすることはできるでしょう。

中塚： ポイントは A 案、B 案、C 案というところですね。

- 1、理事会の議に基づき、理事長が「役員候補者選考委員」を委嘱する。
 - ・人数は 5 名
 - ・A 案 理事の委員も可。ただし委員数の半数を超えない
 - ・B 案 理事の委員は不可
 - ・C 案 理事会＝選考委員会とする。

今気が付いたのですが、今年度の会員名簿の規約が古いですね。第 7 条「代表 1 名 幹事 5 名 監査役 1 名」が古いままになっていますね。骨格は変わってないですけど名称が運営委員になります。

高橋： 学会とは多少違うと思いますが、フットボール学会では通常一会員は全て同じ研究者として民主的な 1 票を持つというような考え方があるので、平等に全員が 1 票ずつを持って理事を選んだらいいのではないかという意見が出たのですが、フットボール学会も出来てわずか 3 年目ということで、これまでできてきた経緯ですとか流れを支えてきてくれている人が全て入れ変わってしまった時に本当に運営ができるのかという意見が出されて、フットボール学会も一応学会ではあるのですが、完全な投票はまだ入れない方がいいということになっています。同じように、サロンの月例会に 1 回も出てきていないような人まで含めて 1 票で投票した際に、全く会の運営に携わったことがない人が全員選ばれてしまうということが起こった場合、会の継続性が 1 番の問題だと考えています。その場合に、これまでは理事長である中塚先生が次期理事に就任依頼をし、「いいよと言う人をこのように決めました」と総会で紹介し、承認を得るといった形だったのですが、それはあまりにも硬直的であろうという意見からこのような、選考委員という形で会員の声を取り入れて新たな理事を決めたらどうかということから、ここまで考えたと思っています。

そういう意味で、このA～C案というのがあるのですが、会の運営の継続性というものを考えるのであれば全員理事を外した選考委員会というのはちょっと硬直的だと考えますし、逆に理事会が全て選考委員会になりますとこれまでとあまり変わらないという感じがしまして、そう意味では役員をやったことのない人を含めた選考委員会をつくるのがいいのではないかと、私自身は考えています。

本多： 高橋さんの話しを聞くとA案が無難ではないかと思います。あと、手順4で過半数の承認が求められていますが、今回の総会でも理事長にかなりの手間がかかっていると思いますので、現実的に考えると、もう少しゆるくしてもいいのではないのでしょうか。

高橋： でも、その議決を成立させるためには委任状ももらっていますので、例えばこの場合、委任状を1票と考えますと欠席者の委任先の32票が中塚さんなので、中塚先生の意見は33票分の力もつことになり、中塚先生の意見がそのまま会の意見になりますよね。

田中俊： 今までの話しを聞くと、A案でほぼ決まりですよね。そうすると、選考委員を何人にするのかが決まれば、それを理事が半数を本当に超えてはいけないのか、超えても可というゆるやかな方法もありますよね。

中塚： では、本件1番目のところはA案でよろしいですか？→承認
人数はどうでしょうか？

宇都宮： 別途日を設けて集まらないといけないということですよ？

中塚： 基本的にはメールのやり取りでいいのではないかと思いますね。つまり、あまり人数が多いと小回りがきかないということですよ？

宇都宮： そうですね。メールでやり取りをするのであれば取りまとめ役、選考委員長みたいな人が必要ですよ。

麻生： 役員候補者選考委員に選ばれた人は、理事会に推薦される人にはなることができないのですか？

中塚： いや、それはできるのではないのでしょうか。

麻生： 色んなことを考えてこの人がいいと推薦できるような人は役員の候補にも挙がる人になるだろうと予測されるので、もしそれができないということになると、選考委員の選定が大変かなというのがあったので。

高橋： まず、そのリストが理事会に出されて理事会で認められるというフィルターがあり、総会でもう1度フィルターをかけるという意味では、チェックが2度入りますので、選考委員会の方でも重要な人物であれば候補に挙がっても問題ないでしょう。

中塚： もし選考委員会が必要に応じてオブザーバーを招集できるという事を前提にするのであれば、選考委員そのものはそんなに多くなくても良さそうですね。例えば3人くらいで。

浦和： A案で、例えば1人は理事じゃない人を入れるという形が良いのではないのでしょうか？

高橋： 理事以外の方が意見を言いたければ、理事2人に対して1では辛いと思うので、半々くらいにするのが良いのではないですか。2-2くらいがバランスとしては良いと思います。

中塚： 理事2名・理事以外2名の計4名でいいのでしょうか？→承認

本多： これ、理事長は入らないのですか？

中塚： 入らない方が良いのではないのでしょうか。

高橋： 理事長が参加するとしたらオブザーバーとして、それも選考委員会が意見を聞きたいのであれば呼ぶということで考えればいいのではないですか。

中塚： じゃあ、理事長は選考委員にはならないが、委嘱する訳ですね。どこかの時点で僕から理事会に働きかける訳ですかね？例えば、今はまだ2005年度の理事は決まっていなくて、通常サイクルでいくと2006年度の理事をこれに合わせてやるわけでしょ？2006年度理事を決める役員候補者委員は、いつ決めたら良いんだろう？

浦和： 秋口くらいには決まっていなくてだめなんじゃないですか？2月にリストアップしないとイケないから。

中塚： そうですね。

両角： 「理事会の議に基づき、理事長が委嘱する」というのは、理事長が選ぶわけではないですよ。理事会が選ぶわけですよ。理事会で審議をして、理事からと理事以外から誰にするか相談して、理事会として4名の選考委員を選出して、理事長がその人たちにお願いする訳ですね。理事会で決めるのであれば、別に選考委員に理事長を入れないという規定はなくてもいいのではないのでしょうか。

中塚： では、ここから先は文言にしなくても構わないけど、僕のアイデアとしては理事長じゃなくて副理事長が言い出しっぺになって、夏休み明けくらいを目処に役員候補者の話し合いを始めるというイメージでいきたいと思います。

大きな4番目「理事会が承認した後、3月総会に附議する」で先程本多さんから出てきましたが、その時点の会員数の過半数の承認という部分で、本当にみんなメールで連絡をくれるだろうかという心配があります。「全員を承認する」「〇〇氏を除き、承認する」「全員を承認しない」の3択を3月総会前に行い、3月総会は3月上旬の理事会の中身を承認してもらって総会になるので、そのタイミングで承認投票をやってもらう。つまり会員の義務としては、まず、

2月後半～3月上旬 次年度の理事の投票に参加すること

3月中旬～4月中旬 翌年度の会員への入会の意思表示及び新規名簿作成・送付

5月総会の日程決定後 総会の出欠・誰に委任するかを連絡すること

昨年度からは退会の意思表示をしない限り会員ですから、このやり方で出来るようになりました。

両角： では、役員選定手順（理事会案）の1番を

1.理事会の議に基づき、理事長が「役員候補選考委員」を委嘱する。

人数は4名（理事から2名・理事以外から2名）

というかたちにして、これを規定に書き換えます。

中塚： 仕上がった規定を承認してもらって手続きは、臨時総会という形で会員にメールを流せばいいですね。総会は、ホームページ上でできるというのをメールでできるということに読み替えています。両角さんが規定を提出してくれる先の理事会ですけど、新理事が決まるまでは2004年度の理事が引き続き行うということで、昨年度の総会で確認しているので現行の理事会でOKです。メールでも現時点で理事の決定方法は規約に載っていない、2005年度理事が選出されるまで2004年度の理事が継続して行うことを承認していただきたいというかたちで会員に投げかけています。

両角： でも、それは総会で承認されているわけだから、附則に「規定が制定されて新たな理事が選出さ

れるまでは2004年度の各役員がそのまま継続します」ということを載せておいた方が間違いはないと思います。

中塚： いずれにしても、大急ぎで2005年度理事を選ぶということですね。

両角： また理事会をやるのも大変でしょうし、今日理事の方々が揃っていらっしゃるのだから、大体のところを決めておいたらどうですか？

中塚： じゃあ、総会の後に考えましょう。審議事項の1つ目は以上で終了とします。

審議Ⅱ. 2005年度事業計画及び予算

○予算案

川井： 「2005年度予算(案)」の内訳のページをご覧ください。会費受入については、現在会員の意思表示をしている117名と例年の傾向から途中で5名くらい入ってくるだろうということで計算しています。今年度は、名簿とともにシンポジウムの報告書を送るために1人一口当たり3,000円になっています。雑収入についてですが、2004年度は補助という形になりましたが、月例会等の特別会計から若干のプラスが出ることを想定しています。これに前年度繰越金を加えて、収入の合計は510,000円としています。

これに対して支出の部は、まず、月例会補助として50,000円とありますが、出張サロンなどで足りない部分についてはサロンの事業の1つとして補助しようということですが、他には、プロジェクト補助100,000円、印刷製本費59,000円、月例会案内などの通信運搬費114,680円、借損料10,000円、メーリングリストに関する雑役務費10,000円、事務費30,000円、そして他の事業で足りなくなってきたときに補助するという意味で予備費136,320円、以上で支出の合計は510,000円としています。

○シンポジウム・プロジェクト

中塚： この予算と合わせて事業全体を見ていきたいと思うのですが、予算書でのプロジェクト補助というのは、公開シンポジウムの補助をイメージしていますよね。

ここで公開シンポジウムの位置付けですが、基本的に月例会を拡大したものと考えていますが、プロジェクトという部門がなかなか独自で立ち上がらないここ数年の状況を見ると、今回シンポジウムを実施すること自体がプロジェクトなんじゃないかなとも思います。

浦和： 前にやっていたフットサルプロジェクトはどのようなかたちで終わったのですか？

中塚： プロジェクト1は報告書を作って、プロジェクト2はうやむやな形で終わりました。その後、どのようなプロジェクトが行われたかと言うと、シンポジウムの第1回となったワールドカップ・プロジェクト1、シンポジウム2回目のワールドカップ・プロジェクト2。サポータープロジェクトはサロンの公認プロジェクトという道も探ったけど、結局サロンでは担えないということで、サロン初の未公認プロジェクトという形になりました。それ以降は、サロンの内向けのものとして月例会活性化プロジェクトが行われただけですね。

麻生： 公開シンポジウムの事務局をやっているうちに、月例会の延長なのか、特別なものなのかどうか

分からなくて難しかったです。

準備を進めていく段階で、例えば有料の会場を使用可能なのかどうかとか、規模をどのくらいにしてどれくらいの活動ができるのかということを考えていた時に、これくらいの予算規模でできますよというのが出てきたり、これくらいの規模にしましょうよという話し合いを設けたりできないと準備が進めにくい印象がありました。なので、プロジェクトかどうかは別にしても、月例会とは別事業の1つとして整理した方が、準備などがし易い気がします。

中塚： 整理をする上では、月例会の一つとしてもいいですね。

麻生： シンポジウムと月例会を、同時開催と見なすというのは構わないと思います。

中塚： 同じように出張サロンも月例会の頭数の中に入れてるので、シンポジウムは特別な存在であり月例会はそれに乗っかっているという形ですね。つまり、特別な存在としてパワーを発揮するための公開シンポジウムプロジェクトというのを毎年度メンバーを編成してやるくらいの方がいいかもしれませんね。位置付けとしてはそんな感じでいきましょう。いわゆるプロジェクトというものの中身が今まで形式的にはなかったけれど、実質的には公開シンポジウムに取り組んでいるのだから、それをプロジェクトとして公認していこうと言うことですね。

では、先に公開シンポジウムの話しをしておきたいのですが、昨年度はt o t oを取り上げ報告書もまとめたのですが、本年度のシンポジウムのテーマ・時期の大枠をここで決めておきたいと思います。中心になって運営をしてくれる事務局長（プロジェクトリーダー）も選任しておきたいと思うのですが何かご意見ありませんか？

両角： 全く違う趣旨の質問で申し訳ないのですが、シンポジウムの時にやっぱり参加費は取りますか？つまり、サロン会員はいいのですが、非会員は無料にしたほうが参加者が増えるのではないのでしょうか？1,000円払って行く価値があるかというのでもあるのではないですか。月例会と同じ考え方で言えば、会員は一定の話題を提供してくれる人の話題を聞くのだからその対価として1,000円を払っていますが、無料にした方が例えば歩いている学生もちょっと寄ってみようかなと思うかもしれないですね。

野崎： タダの方がうれしいですね。

両角： それで、サロンっておもしろそうだなってところから1,000円もらってもいいのではないのでしょうか。

芦沢： 僕は、昨年度のシンポジウムは、自分の大学の学部の教授から勧められ、チラシを見て行きました。タダに超したことはないですけど、興味がある学生は絶対行くと思います。

浦和： 例えば大学でやるとしたら、学生は無料でもいいじゃないですか。

中塚： シンポジウムの会計を見ても、参加費収入はたった27,000円ですが、これがゼロだったからと言って大きな痛手でもないですね。

両角： まあ、ゼロにする必要はないと思いますけど、会員からは取っても良いと思います。例えば、謝金はもらうにせよ、高橋さん・福西さんだって手弁当で来ている訳でしょう。そういうお金は当然払って然るべきですね。

徳田： シンポジウムの参加費って、参加しようがしまいがサロンのオフィシャルのイベントだから年会費の中で予め取っておくのはだめですか？

中塚： そうすると年会費4,000円となるわけですね。

川井： 会費を2,000円から3,000円に上げただけでも、収入が280,000円から360,000円と結構増えま

すよね。

徳田：別に収入を増やすのが目的ではないですけど、収入が増えればそれだけ事業費も増やせますよね。会費に入れれば、はじめにシンポジウムの予算が決まるじゃないですか。

田中俊：非会員に向けて情報を発信するのであれば、無料公開シンポジウムの方が人は集まりますよね。そして、学生をターゲットにするなら学園祭に便乗するのが1番良いでしょうし、例えば今早稲田が一生懸命やっているようだから早稲田がやっているシンポジウムに我々が行ってやってもいいですし、その方が集客という面では良いですよね。それでその報告書は、買ってもらうような形にすれば、モチベーションの高い人は買うだろうし。

長谷川：サロン全体のお金で投資しても、人数を増やすとか興味ある人に気軽に来てもらえるという点ではいいのではないのでしょうか。大学のサークルでも、勧誘するために上級生が1万円とかありえないくらいの金額を出して、その中の1割でも入ってもらおうという考えでやっています。それに比べたら、みなさん社会人なので金銭的余裕もあると思うので、投資してもいいと思います。

依藤：予算書を見ると予備費が異常に高いんですよ。普通、予備費というのは、全体の予算の3%くらいにしなくてはいけないと言われていて、それを考えるとここからもう少しプロジェクトに回した方が合理的かなと思います。

高橋：予備費を大きくしすぎると、会費を減らせという意見が出てくる可能性もありますよね。結果的に次年度に繰り越されるのであって、最初から年度繰越を見越したような額を予備費に入れているのであれば、事業費の方に振り分けておいて結果的に残ったという方が良いと思います。

中塚：例えばプロジェクト補助を200,000円にして予備費を36,320円にすれば、たぶん今年度の規模でも参加費無料で楽にいけますよね。そうしましょうか？→承認

まず、予算の方の予備費を36,320円にして、プロジェクト補助を200,000円。

しかし、シンポジウム以外のプロジェクトが立ち上がる可能性もあるので、プロジェクト補助という名前はそのままにして、ここでは公開シンポジウムプロジェクトとその他のプロジェクトという2本立てにしましょう。そして、今年度のシンポジウムは無料公開シンポジウムにすることにしましょう。次年度の会費をどうするかについては、もう少し様子を見て考えていきたいと思います。それで、シンポジウムのテーマと内容ですが、どうでしょうか？ここで決定する必要はありませんが、いろいろな案を出して、いつ頃という目処を立てておきましょう。去年の11月というのはいかがでしたか？私は悪くないと思ったのですが。それまでは8月にやっていたのですが、会場の都合などで去年は11月開催ということになりました。

麻生：8月というのは準備期間が短すぎて難しい。また、10月の体育の日周辺は、スポーツ関連のイベントで会場が使えないということで、結局11月に大学でということになりました。

福西：対象をどの辺にするのかで時期は変わってくるのではないのでしょうか。

依藤：なるべくJリーグが開催していない日がいいですね。

浦和：もしアジア予選で負けたら11月頃はプレーオフをやっているのではないのでしょうか。

徳田：それは10月20日くらいには終わるから、その後だったら大丈夫です。

田中：11月3日にナビスコ杯があるから、その週の土日は試合がないからいいのではないのでしょうか。

中塚：では、シンポジウムは10月後半から11月の吉日を選び開催するというようにおきましょう。プロジェクトリーダー、あるいは事務局長はどうしましょうか？テーマと関係しますよね。ちなみに

過去の事務局長は、去年は麻生さん、その前は上間さん（当時東京大学大学院・現F C東京フロント）、その前は東京と大阪に分かれてやったのですが、東京は中央大学の加納先生、大阪は本多さんが担当してくれました。初年度は笹原さんが事務局長でした。

本多： 話しは変わりますが、日独サッカー交流展というのを11月10日～29日にやろうということで、新宿のパークタワーで行い、どこかでクラマーさんにも来てもらおうと考えています。海外との交流やワールドカップというテーマでやるのであれば、この企画にのっかるのも1つの案だと思います。今のところ内容は決定していませんが、考えているのはトークショー・シンポジウムとしてクラマーさん・賀川さんと何人か、例えばクラマーさんの教え子である長沼さん・岡野さんにするカリティーとかブッフバルトにするかというところまでしか決まっています。それと、もう1つはパーティー形式でクラマーさんとかメキシコ・東京の出場選手、一般の方も入ってやろうかと思っています。あとは写真展ですね。このトークショー・シンポジウムという部分をサロンが担当するのか、又はサロンとして別にやるのはどうかと思います。

中塚： それは、別物の方がいいですね。仮に、11月に新宿にその様な企画があるのであれば、そのタイミングにその周辺でサロンとしてやるのが、ドイツにゆかりのある方もいらっしゃるのでは良いかなと思います。本多さんが暫定プロジェクトリーダーというのはいかがですか？

本多： それ以外の可能性が無いかなとも思います。

中塚： あるとしたらt o t o続編ですね。何となく去年の飲み会後の話しを思い出しましたが、医療の話だったと思います。スポーツ単独ではだめだということで、医療とどう融合していくかというようなことを、地域に根ざすということをキーワードにしながら病院の地域に根ざすということだったと思います。

田中： ちなみに10月第1週土曜日は「骨と関節の日」で、各地でイベントをやっているのですが、今年のテーマがスポーツと整形外科でした。この日はいつもJリーグと重なるので、僕はJリーグの会場でやってくれと言っているのですが、会場をテント設営してやるというものでもないで、例えば100人くらい聴衆がいて、ある先生が病気のことをやって、ある先生はスポーツの側から見てこのような疾病が多いですよというような形です。しかし、Jリーグの開催日なのでチームに帯同している人などは、病院で控えていたりするので、そのような人たちを担ぎ出すというのは難しいんですよ。僕はいつも開催日を変更してくれと言っているのですが、上の先生はプロ野球も終わっているしいいだろうと言って、10月の第一週というのは動かないです。個人的に興味があるのは、ドイツと言えば福田が初めてスポーツ医療に行きましたが、彼が受けたのは外科医で要するに脱腸手術なんですよ。その概念というのは三菱の駐在員か誰かがレッズに言ったっていうのが始まりでブンデスリーガから学んだんですよ。その辺のことを11月のシンポジウムで誰かに発言してもらえると、おもしろいかなと思います。

中塚： おそらくクラマーさんとかがやるシンポジウムはサッカーの中身の方が話題になるのでは。だから、サロンらしい切り口であればもっと医療や地域との連携、医療とスポーツの関係ドイツバージョンというのを聞きたいですね。そんな方向で考えましょうよ。

本多： 2002年はまさにサロンとしてはとにかくやるぞということでやっていました。じゃあ、2006年もやろうということで、みんなワールドカップに行きたいと思いますよね。徳田さんに手配していただき、直前に行くぞっていうのがあって、その前に一発花火打ち上げようみたいなものができればいいのかなと思います。

中塚： せっかく W 杯の前年ではあるし、日本におけるドイツ年ということでもあるので、2006年ドイツへ向けてということで、ドイツから学ぶことがあるかもしれないし、大卒そのようなテーマで、一度他の会員にも投げしてみようと思います。そのテーマで取り上げたいトピック、このプロジェクトのメンバーになって運営をやってみたい人を募集し、その中からプロジェクトリーダーを選ぶという形でいきたいと思います。時期的には10月後半から11月を目処にしましょう。

○出張・合宿・お出かけサロン

候補地1：名古屋

高橋： 9月25日まで愛知万博をやっているので、愛知でやるとしたら1日目は出張サロンをやって、2日目は万博見学ということにしようかと思っています。ただ現在、名古屋は非常に混んでいて、ホテルを取るのが非常に難しい状態です。ですから、人数・日程を早めに決定して、ホテルを予約する必要があります。ホテルを確保することがすることが困難であれば、名古屋大の宿舎(食事なし。1泊約3,000円)に泊まってもらうかもしれません。内容と会場については、榊原さんという2年前に成岩スポーツクラブを立ち上げた方が、愛知県でも広域スポーツセンターを立ち上げなければいけないということがありまして、中学校の先生を辞めて県の教育委員会にいます。今は榊原さんが1人で広域スポーツセンターを立ち上げているのですが、愛知県は今までそのような事をやってこなかったので色々な種目でコーチングの話しを聞きたいとか、人材ネットワークを作りたいという意見が出ているので、イメージとしてはサロンの方も入るのですが、地元の人たちを含めて、色々な競技種目の連携というような事が話せればいいかなと思います。また、愛知県はまだまだ企業が非常に順調で企業スポーツが撤退していないんですね。TOYOTAをはじめ色々なトップリーグにチームがいますので、声をかければ来てくれるのではないかなと思います。それから、愛知ではないのですが湘南ベルマーレに知り合いがいて、例えば、最近湘南ベルマーレでソフトを始めたりとか、Jリーグでも最近色々な種目に手がけ始めているという事を聞いていますので、そんな事を含めて種目間交流と将来の総合型スポーツクラブみたいな話しを榊原さんには是非して欲しいと言われていました。そういうことで良いのであれば、愛知県スポーツ会館というのが名古屋城の裏にありますので、そこが会場になるでしょう。

開催時期は、8月になると万博が非常に混み、真夏の名古屋は超暑いので大変かなという気がしますが、9月25日の万博が終わる前に行いたいと思います。多くの方が来られる日がいいですね。こちらでも調整してみます。

候補地2：関西

本多： もう少し軽いものになるかと思っています。

候補地3：刈谷

中塚： 今、高橋さんが愛知は企業スポーツが盛んだとおっしゃいましたが、現在デンソーが厳しくなってきたらしくて、デンソーサッカー部の市民クラブ化というものもう具体的に動いていて、刈谷の出張サロンの延長で僕のところに話しがきました。そういうのと絡めて、また出張サロン in 愛知とし

て広域開催としてやるのもおもしろいかなと思います。

○月例会

中塚： 6月の月例会の候補がもう決定しています。Jリーグの山下さんから打診を受けたのですが、ゲーム分析を行っているOPTAがものすごく多くのデータを持っているのに、そのデータがうまく活かされていなくて、そのデータを見てどういう活かし方があるかについてディスカッションして欲しいというものです。つい先日、担当の方が来られてデータを見せてもらったのですが、かなりマニアックなものもありました。日程としては、6月13日からの週か20日からの週で行いたいと思います。

月例会の担当者を理事運営委員の中で、去年からある程度決めていたのですが、もし今の段階でこのあたりを担当したいというのがあればそこから決めていきます。何か月例会テーマの希望はありますか？

両角： 新生totoはこうなるというのを12月か1月にやってもいいですね。そのことに関連して、実は来年からtotoを銀行に委託しないでやるので、内部に経営管理とかマーケティングの専門家を15人くらい入れています。

今のやり方は、りそな銀行を通してその下に会社をつくり、博報堂などが出資しているものから、博報堂などがかなりお金を出して市場調査などをして商品企画をしているのですが、今は非常に手作りでやっています、この前もサロンの方にご協力いただいて、田中さんには自分の入っている1,000人規模のメーリングリスト(ML)にも流してもいいよと言ってもらいました。サロンのMLをあまり商売に使ってもいけないと思うのですが、totoのためにMLを使わせてもらってもいいでしょうか？

中塚： いいじゃないですか。

両角： 今回はこちらのサイト上に調査フォームを載せているのですが、たくさんサンプルは欲しいけどclosedでやっているという変なやり方です。もう少し工夫して、1回サロンの人たちの意見を聞いてみたいと思っていますのですが、総会で今回ご了承いただいたということでもよろしいですか？→承認

実はもう来期のスタートの商品はかなり固まっています、あんまり早くお話をして宮崎さんのサッカーマニアに載せられても困るので12月か1月の月例会でできたらと思います。

高橋： 例えばサロンが何かの調査主体になって、もっと他の案まで含めて調査をし、サロンとしてこのようなことを市場は求めているというのを意見書としてこのセンターに出すというのはどうですか？

両角： それも非常にありがたいですね。ですが、案外今まで出てくる案が我々の想定内なんですね。しかし、いただけるというのは非常にありがたいです。

中塚： せっかく昨年のシンポジウムでtotoを活かそうというのをやったのですから、1年で終わりではなくて、これからも関わるようにしましょう。

両角： 実は現在委託しているがゆえに421億円以上売れないと収益が出ない構造になっていますが、次期は200億円でペイするモデルで作っています。仮に300億円売れるとすると、現行でいくと2億か3億の助成がやっとなんですけど、数十億規模で収益が出るようになります。

中塚： それから月例会の話で、サッカーTVで紹介してもらおうというのが続いているのですが、3月末のパーティーの様子を撮ってもらったのですが、どうも仕上がりが良くなかったようで、また改めて月例会をやっているところ取材に来るとのことです。

○サロン2002オフィシャルサイトについて

本多： 毎年言っていることですが、この数が多いと考えるのか少ないと考えるのかは人それぞれだと思いますが、現状では一日当たりの訪問者数は去年の8月が一番多くて164人（月5, 101人）、7月が150人（月4, 521人）でした。それ以外の月も3,000人～4,000人で推移している状況です。更新は、月例会の報告と総会関連のものを、基本的な情報だけ報告レベルで掲載しています。これからもっと広報ツールとして使っていきたいということであれば、例えば宇都宮さんのサイトからリンクするとかやり方は色々あるのですが、1日100人以上見てくれているというのはいいのではないかなと思います。2002年は多かったのですが、その時はサッカーのサイト全体のアクセス数が増加しているのでサロンのサイトがという訳ではありません。でも、2002年でぐんと上がって今はある程度のレベルで止まっているという状況です。

中塚： 毎年何人かHPが動機になって入って来る人がいるので、知っている人は知っているんだなと感じます。あと、福岡さんからは今日中に更新しますというのが2回くらいきているのですが月例会報告が2月のままです。ワールドカップシンポジウムの報告書は載せますか？

去年の報告書は載せてなくて、今年のもまだなんですけど。

本多： 1つにまとめると大きくなるのでいくつかに分けてPDFで落とせるようなのでいいですよ

中塚： では載せるということで行きましょう。

○メールリングリスト・サロン通信

中塚： 今年も湧田さんをお願いしようと考えています。サロン通信は、私の方から送っていきます。

○予算案承認

中塚： これらを全部含めた予算ですが、もう一度確認すると、予算書の変更点はプロジェクト補助を200,000円にして、その内訳はシンポジウムとその他のプロジェクト。予備費を36,320円にするということです。

○ポロシャツについて

両角： 私もポロシャツについての決算を出さなくてはいけなかったのですが、年度をまたいでしまったので次期までに出させていただきます。まだ4～5枚残っていて、全部売れた際には雑収入にできますけど、もう一度私からMLに残枚数を載せましょうか。追加注文もまとめれば可能です。もう元はできているので、長袖でも帽子でも何でもできます。10枚以上であれば物が分かれても良かったと思います。

依藤： ロゴをデザインした土谷さんが、3日間くらいかかりきりで作ったのにまだ謝礼をもらっていないと言っていたのですが。

川井： このロゴの著作権はどこにあるのですか？サロンが自由に使っても問題ありませんか？私は、何か資料作るときについ入れたいと思ってしまうのですが。

依藤：それも話題に出たのですが、著作権なしということです。

両角：土谷さんには、爆発的にヒットしたらどうしますかと言ったのですが、その時に考えましょうということでした。

高橋：謝礼についてはみんながハッピーなようにしたいですね。

本多：販売して利益が出ているのであれば、その分を払えばいいのではないのでしょうか。

両角：全部売れたら1～2万円の利益が出るような感じだったと思いますが、土谷さんにしてみれば、1万円くらいだったらボランティアの方がいいというのはありませんか。

依藤：たぶんそうじゃないです。

中塚：土谷さんに率直に聞いてみます。

両角：長袖はつくりますか？

中塚：新しく作るかどうかともメーリングリストで1度流してみた方がいいかもしれませんね。

田中：シンポジウムの人に会員が着るといいですね。

浦和：シンポジウムで売るといのはどうですか？

両角：去年も売りましたが、会員以外は誰も買いませんでした。

中塚：この件については、安藤さんの方から去年と同じように、夏に向けて追加注文の希望をとってください。

安藤：著作権の問題がクリアしてからの方がいいですね。

高橋：土谷さんに聞いてみて、サロンで自由に使っていいという確認が取れてからやりましょう。

○会費について

福西：会費の変更について附則に入れた方がいいのではないのでしょうか？

両角：3月18日までの総会で会費の変更が承認されたということで、附則にのせます。

○サロンの今後について

徳田：女性が少ないということ、何とかした方がいいと思うんですけど。何回かに1回分かりやすいテーマにして人を集めるというのはどうですか。

田中理：試合を一緒に見に行く女性はいますが、サロンは敷居が高いというか、話しとしてはおもしろく聞けても雰囲気が入りづらいようです。

両角：スコットランドのスポーツ事情とかは確かに聞きたいと思う人が限られますよね。そういう会もあっていいとは思いますが。

中塚：宇都宮さんの時は割と集まりますよね。

依藤：宇都宮さんの時は、自分が入っている別のメーリングリストでも案内させてもらっています。

福西：女性の意見も聞きたいですね。昨日セリエの女性の方と話して、女性ならではの感覚ってあるなと感じました。

中塚：田中理恵さんの写真展というのをやりましょうか。一度女子サッカーについて小林みゆきさんがやってくれただけで、そもそも女性の発表者が少ないですね。

田中理： 私自身としては、女性から見てとかいうのはあまり好きじゃないんです。

麻生： 女性から見たっていうのを嫌う人は多いですよ。確かシンポジウムの第1回は女性の方でしたよね。競技に近くなればなるほどスポーツの構造上男の人が多いのは仕方がないのですが、どうも男の人ばかりで女の人が意見できない場面もあるので、わざわざ女性からということではなくてたまたま発表しているのが女性だという感じの人が増えるといいですよ。

本多： 宇都宮さんの発表は、サッカーを見る・楽しむという感じだから女性も入り易いんでしょうね。

依藤： 場所をスポーツカフェでやってみるとかいうのもありなんじゃないですか。

高橋： パソナスポーツを立ち上げた女性の社長さんがいまして、筑波のサッカーの方ですけど、小林さんから通じてその方を呼んでもらえれば、その方がやっているのはアマチュア選手のセカンドキャリアということなんです。その方が話せば男女関係なく聞きたいと思うでしょう。中京大学で教えていると、女子のスポーツ経験がある人が結構いるんですね。彼女たちは、スポーツをしながら就職するのは無理だともう諦めているので、そういう話しであれば女子でスポーツをやっている人が結構集まるかと思えます。

浦和： 話しは変わりますが、大学生や大学院生が発表する機会を作ってもいいかもしれませんね。卒論の中間発表などを、1人で時間的にもたないんだったら何人かでやれば、教授に指摘される前にやさしい人の意見を聞けるのでいいかと思えます。

中塚： 以前はよくやっていたんですけどね。では、女性・学生のための機会もありますよというスタンスでいきたいと思えます。

両角： この統計って年齢別などのデータはありますか？

川井： この統計の女性というのは、私が勝手に参加者の名前を見て数えただけなので、年齢別などのデータはありません。でも、女性を入れるというのは、今はどこでも一般的ですよ。

両角： t o t oも女性客は5%しかいないんです。

中塚： 過去、理事も堀さんがやっただけですね。

○法人化について

中塚： サロンの法人化については、常々考えてはいるのですが、一步が踏み出せないでいるので、どうしたらいいかなと思ひまして。まあ、この話しは節目節目でしていきたいと思ひます。もし、何か大きなことをどこかの補助金をもらってやろうとした時に、任意団体では厳しいので、そのあたりを考えていきたいですね。

○サロン掲示板について

長谷川： サロンのホームページに掲示板を作れば、例えば代表戦とかをみんなで語りあってもおもしろいですし、サロンの中でのつながりも深まるでしょう。サークルとかでも掲示板というのがかなり役立っているの、サロンでもあったらおもしろいかなと思ひます。

浦和： 2002年の時は、物語を集めようという掲示板があったけどあまり稼働しなかったですよ。

本多： もし会員への連絡というのであればメーリングリストがありますけど、これメーリングリストに

載せていいのかなっていうのはあると思うんですね。

長谷川： メーリングリストだと強制的にみんなに回っちゃうというのがあるので、掲示板の方が気軽に使えると思います。

本多： 書き込みが出来る人や内容が読める人の特定については、プログラミング次第でいくらでも変更できます。ブログにするという方法もあります

中塚： この話しは総会以外でもよく出ていて、もしそのような希望があるのであれば、メーリングリストで提案して賛同する人がいればやってもいいですね。

では他に何もなければ以上で終わりにします。お疲れ様でした。

以上

<補足：サロンのロゴの著作権と制作費について>

標記の件について総会翌日に、土谷氏と中塚理事長が電話で話をし、次の点を確認した。

1) 土谷氏にとって「ロゴ制作」に携わることはサロンに対する会員としての GIVE の気持ちが強かった（制作費目当てではないということ）

2) それでも、もし制作費をいただけるのであれば、「月例会報告作成者謝金」程度が妥当との認識である（こうした"仕事"は初めてなので、"相場"についてはわからない）

3) 月例会報告作成者謝金は 5,000 円。これではあまりにも少ない。せめて、少なくとも月例会発表者謝金の 10,000 円以上ないと申し訳ない（それ以上の大きな価値を持つ）と理事長は認識する。

4) サロンのロゴの著作権については「著作権はサロン 2002 が持つことにしてほしい」と土谷氏からの申し出あり。ならばなおさら、謝金をもう少し多くと理事長は考え、「会計担当と相談する」ことで土谷氏の了解をいただき、本件を預かった。

5) 翌日、会計担当の川井氏と相談。サロンのロゴに一定の価値を与える必要性も考慮し、30,000 円の謝金を 2005 年度会計から支出することで対処することとしたい。

その後、土谷氏からは改めて「著作権はサロン 2002 へお渡ししますので、どんどん使って下さい。（中略）今回のサロンのロゴの制作に関しては、サロンの活動やコンセプトにとっても共感していたので気持ちが入り、楽しく制作できました。今回のロゴを用いたサロン 2002 関係のデザイン等ございましたら、できる範囲で協力いたしますのでお申し付けくださいませ」との丁寧なメールをいただいた。

2005.6.12